

Impact of Annual Cardiovascular Screening Tests in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus without Previous Histories of Cardiovascular Disease: Four-year Clinical Outcomes

安徳, 喜文

<https://hdl.handle.net/2324/4784721>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International License.

(別紙様式2)

氏名	安徳 喜文
論文名	Impact of Annual Cardiovascular Screening Tests in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus without Previous Histories of Cardiovascular Disease: Four-year Clinical Outcomes
論文調査委員	主査 九州大学 教授 塩瀬 明 副査 九州大学 教授 笹栗 俊之 副査 九州大学 教授 小川 佳宏

論文審査の結果の要旨

申請者らは以前、心血管疾患の既往のない無症候性の2型糖尿病患者に年一回の定期的な大血管系スクリーニングを行うと19%の患者に心筋虚血を認めることを報告した。今回はそれに引き続き、対象患者への大血管系スクリーニングの長期的な臨床効果について調べた。2014年4月から2018年3月の間に登録した657人の2型糖尿病外来患者のうち、少なくとも一回以上の大血管系スクリーニングを受けた群と一回も受けていない群に分けて、比較した。その結果、4年間に当院に通院した2型糖尿病患者のうち、大血管系スクリーニングを受ける回数が増加するごとに①心血管疾患予防薬であるスタチン製剤、抗血小板薬、RAS系阻害薬の内服率が有意に上昇②LDL-コレステロール、中性脂肪の数値が有意に低下③心血管疾患の重要な予測因子である高感度CRP値の有意な低下④腎機能低下を有意に抑制⑤4ポイントMACE及び心不全入院を抑制⑥全死亡率が有意に低下することが分かった。

以上のように2型糖尿病外来患者に数年ごとの大血管系スクリーニングを行うことは重要である。

以上の実験結果はこの方面の研究に新知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験結果等について説明を求めた。各調査委員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士(医学)の学位に値すると認める。